

包括提携、関東で事業開始

カンダHD

中国・4PX

中国向け越境EC、成田発も

日中間のエクスペディア分野で、両国の物流会社による協業が進んでいる。カンダホールディングス(HD)は、中国の越境eコマース(EC)専門業者、ECフォーワーダー大手の4PXエクスプレス(通四方速運)と包括提携し、都内で新たに倉庫を受託した。これまでは国際物流大手のベガサスグローバルエクスプレス(PGE)が4PXの越境EC輸送サービスの代役を行ってきたが、関西空港発で大阪に倉庫を置き、関西地区・西日本が事業の中心だった。今後は都内倉庫で関東・東日本の集荷を図り、成田発中国向けのサービス確立を目指す。4PXは、シンガポールや台湾経由の郵便ルートや独自ルートによる中国向け越境EC輸送を行っており、中国EC最大手のアリババ・グループの指定業者として、日本発のトップクラスの輸送量を持つという。

4PX、カンダ倉庫内に
同社は4月1日付で包括提携。カンタHDの都内北区浮間の倉庫約1000平方メートルに、4PXは2018年3月、日本法人の4PXエクスプレス・ジャパンを立ち上げた。方びを4PXが借り受け、東早支店も設置した。

上げ、大阪南港の「プロロジスパーク大阪E」内に延べ床面積6000平方メートルの倉庫を設置した。現在は従業員30人で運営し、日本発中国・香港・台湾など向け貨物を毎日1万5000件扱っている。

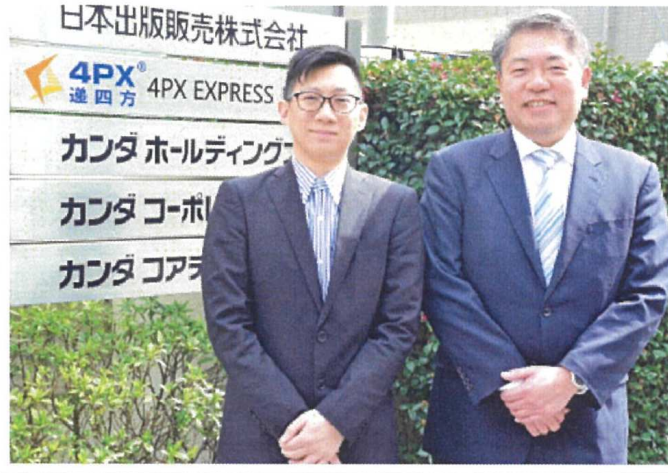
PG Eはこれまで、関西地区を中心とする集荷と4PXの南港倉庫までの配送を行ってきたが、今後はカンタ浮間倉庫への集荷・配送のほか、4PXの海上貨物などの取り込みも狙う。

郵便輸送ルートでの海外発中国向けエクスプレス貨物直送サービス「聯郵通(ボストリニック)」を提供しており、行郵税の「IMS」(CTPS)は両ポストのルートを活用する。主に関空からシンガポールや台湾

を經由し、中国全土に宅配する。課税方式は付加課税型のため、検査が発生すると税金が徴収されるが、運賃に郵税を含まないのが「IMS」、含むのが「CTPS」だ。

指定する「GFC倉庫」となっており、同社の越境ECモール「天猫国際(Tモール国際)」で販売された貨物が納入される。今後はカンタHDが受託した4PXの東京の浮間倉庫も指定を受ける予定だ。

6面に続く



多様な4サービス
4PXは中国向け越境EC輸送で、主に4サービスを提供している。個人向け一般小口貨物として、簡易通関で郵税の適用を受ける「IMS」「CTPS」と、越境EC新税の対象となる「保税販売」と「直郵」方式による「IPS」「IES」の4サービスで、日本での代理店としてカンタHDなどが販売している。4PXはシンガポール・

開空発の輸出通関では、通関申告表に1件当たりの全ての小口貨物の内容を申告する。個人向け商品のために1件で最大数万品にもなるが、4PXの南港倉庫で「数万の箱を全て開封し、商品コードと申告を照らし合わせて実際の商品を確認し、ワシントン条約の違反物や危険物を取り除いている」(4PXジャパン・謝郁安取締役)。「これにより、ワンハウス・ワンマスタ」による輸出通関を可能としている。

4サービスとも、日中間のシステム連携により、ワンオーダー・ワンラベルでラストワンマイルとなる国内の消費者に届ける。4PXの南港倉庫で小口貨物の箱を大型の袋詰めかパレットサイズしており、家電からおむつまでワンパレットと、中国向け越境ECのラベルも貼付する。

なお南港倉庫は、アリババの物流管理会社、菜鸟(Cainiao)の日本事業部営業開発担当部長(4月からPGEの国際営業本部EC事業部長を兼

務)は「中国政府は越境ECにかかる規定をさまざまに変更するが、4PXはその度に迅速に対応してサービスを調整し、顧客の荷物を止めない輸送を可能にしている。日本では、当社との共同販売で、利用いただく荷主を増やしていきたい」と話している。

業務は「中国政府は越境ECにかかる規定をさまざまに変更するが、4PXはその度に迅速に対応してサービスを調整し、顧客の荷物を止めない輸送を可能にしている。日本では、当社との共同販売で、利用いただく荷主を増やしていきたい」と話している。

(右から)カンタHDの上村明国際事業部営業開発担当部長と4PXジャパンの謝郁安取締役